



# イヌを活用した獣害対策のために

---

## 追い払い犬 実地訓練マニュアル

Version 1.0.8 (2008-6-10)

兵庫県 森林動物研究センター



## 目次

1	実地訓練の内容	3
1.1	目的 . . . . .	3
1.2	方法 . . . . .	3
1.3	評価 . . . . .	4

## はじめに

このマニュアルでは、実地訓練の基本方針と、実地訓練の中で確認すべき候補犬の特性について説明する。

実地訓練は、候補犬の飼主にとっては、より実際の現場に近い状況におけるイヌの制御を学ぶ場となり、行政担当者にとっては、候補犬に対して正式認定をするか否かの判断をする場となる。本文書では、特に後者の正式認定の可否において確認すべき項目とその水準についてふれる。



## 1 実地訓練の内容

### 1.1 目的

講習会型訓練や預け入れ訓練は、イヌにとって集中しやすい環境、飼主にとってイヌを制御しやすい環境で訓練の手法を学ぶ場であった。しかしながら、実際の害獣の追い払い作業はイヌの興味を惹くものが周りにたくさんあり、飼主にとってイヌの制御がしにくい環境での作業となる。そこで、より実際の利用環境に近い状況でのイヌの訓練度および適性を見極める必要がある。

実地訓練は、事前の講習会型訓練または預け入れ訓練で習得した訓練内容の達成度を確認すると共に、基礎訓練を発展させたいいくつかの訓練を導入し、これらを繫留を解いた状態で行なうことを第1の目的とする。

2つめに、害獣追い払い犬の候補となる個体の特性を評価し、実際の現場での利用において、1) 周囲の人へ加害する可能性は無いのか、2) その個体に害獣を追い払う資質が見込めるか否か、などの害獣追い払い犬の正式認定の判断材料とすることを目的とする。

- (飼主側の目的) 実際の状況に近い環境でのイヌの訓練
  - － これまでの服従訓練のさらなる強化
  - － より実践的なイヌの制御訓練
- (行政側の目的) 「害獣追い払い犬」正式認定の判断材料
  - － 人への加害の危険性
  - － 害獣追い払い犬としての資質評価

### 1.2 方法

基本的な訓練内容は服従訓練の強化とし、発声（ほえろ）、前進（まえへ）、方向転換（みろ）、笛を使った呼び戻しなどの実践的な訓練を、訓練士または県および市町村の害獣対策事業担当者の指導のもとで、講習会形式により行なう。

訓練は、イヌにとって攪乱刺激が比較的多いと考えられる林間で行ない、これらの刺激に影響を受けずに飼主の指示に従うよう訓練を実施する。また、林内に対する慣れを形成することを副次的な目的とした場所設定とする。

訓練回数は3回程度とし、各訓練講習会は2週間程度の期間をあけて実施する。各講習会の間隔は、飼主が自主訓練に適度な日数を費やすことができるよう考慮する。

- 訓練項目
  1. 発声（ほえろ）
  2. 前進（まえへ）
  3. 方向転換（みろ）
  4. 笛を使った呼び戻し
- 訓練は林間または山の斜面などで実施
- 訓練回数は3回程度、各2週間程度の間隔で実施

### 1.3 評価

繫留を解いた状態、攪乱刺激の多い林間での服従訓練項目の達成度を主に評価する。

原則として、実地訓練で追加される訓練項目（発声、前進、方向転換、笛を使った呼び戻し）の評価は重視しない。これらの項目は習得に時間がかかるため、想定している実地訓練の期間（1カ月半程度、計3回の講習会）では習得不可能である。これらの項目は、正式認定後、実際の害獣防除活動を通して、完成度の向上を期待すべき訓練項目である。

人へ加害する危険性がほとんどなく（安全・ほぼ安全のいずれか）、実地環境下での服従訓練項目に大きな問題がなければ（「従わない」以外であれば）、認定が可能なものとする。基本方針として、人への危害の可能性がある場合には認定しないが、イヌの制御（イヌの安全性）に関わる問題に関しては、飼主の判断にゆだねるものとする。制御に不安が見られるイヌを認定する際は、そのことを飼主に十分説明する。

- 主な評価項目
  1. 人へ加害する危険性  
安全 ・ ほぼ安全 ・ どちらでもない ・ やや危険 ・ 危険
  2. 実地環境下での服従訓練項目の確実性  
確実 ・ ほぼ確実 ・ どちらでもない ・ やや難あり ・ 従わない
  3. 高度な訓練項目の達成見込み  
習得可能 ・ ほぼ可能 ・ どちらでもない ・ やや難あり ・ 見込めない
- 最終的な正式認定の可否
- 認定に際し飼主にイヌの問題点を伝える

イヌを活用した害獣対策のために  
追い払い犬 実地訓練マニュアル

Version: 1.0.8

Type set: 2008-6-10, 2:53 P.M.

作成：平成 17～19 年度 農林水産研究高度化事業成果

改訂：平成 20 年度～ 兵庫県森林動物研究センター研究事業

発行者：兵庫県 森林動物研究センター

著者：石川圭介・稲葉一明・坂田宏志

〒669-3842 兵庫県丹波市青垣町沢野 940

電話：0795-80-5500

FAX：0795-80-5506

<http://www.wmi-hyogo.jp/>

本文書は平成 17～19 年度の先端技術を活用した農林水産研究高度化事業「獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発」から研究費を得て作成された。

この文書は「Creative Commons 表示-非営利 2.1 日本 (<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/2.1/jp/>)」のライセンスで公開されています。